

古事記上

【高精細カラー版】

臣安萬侶

古典籍の宝庫から厳選した貴重書を、

新編成・新解題により影印刊行!

大型判で可読性が格段に向上!

日本書紀巻第一

天地未割陰陽不  
溟滓而含牙及其清

新

天理  
図書館  
善本叢書

新天理図書館善本叢書  
第1期全6巻  
国史古記録

八木書店

造化之首

出入幽頭日月



内容見本

Shin Tenri Toshokan Zenpon Soshu  
This new series offers full color, high resolution facsimiles of the special collections possessed by Tenri Central Library. The first distribution consists of six volumes in total, which contains important historical documents and records of Japan composed in the 8-13th century.

為神  
常立  
導

干時天地

定然後神  
初州襄浮

一  
游  
中

## 刊行の辞

天理図書館は、本教がひろく典籍・文献類の蒐集を通して、道をひろめ、人を育て、世界文化に貢献することをめざして創設されたものであります。昭和五年の開館当初は、宗教・思想・言語等の諸分野からはじまったものが、次第に歴史・文学・社会・諸芸能などにおよび、これらの上に、戦後、種々の機会に收藏された世界的善籍・稀覯書を累加して、古今にわたる文化資料の集成を見るにいたりました。

本館は、創設者である中山正善天理教二代真柱の御志―蒐集、保存、活用―を体して、これまで種々の複製事業を行ってまいりました。中でも、その画期的事業と申すべきものが、昭和四十六年十一月、二代真柱の命日を以って刊行を開始いたしました『善本叢書』和書之部全八十巻、漢籍之部全十二巻、洋書之部全四十八巻であり、その後の『綿屋文庫俳書集成』全三十六巻に及ぶ出版でありました。

これらの影印本は、その刊行以来、各方面において活用いただいておりますが、すでに三十数年の歳月を経、近年、影印複製技術の急速な進歩により、高精度フルカラーによる影印本の刊行が、各方面から求められるにいたりました。

此の度、既『善本叢書』中から、ことにフルカラーの情報が求められております史籍・古辞書類、古奈良絵本類を選び、また、未だ刊行を見合わせておりました大部な鎌倉期写源氏物語、その他の奈良絵本類、及び、藤原定家・芭蕉・西鶴の自筆類等々を選んで、『新善本叢書』全三十六巻として刊行をいたす次第であります。前回と同じく、製作発売・八木書店、製版印刷・天理時報社と共に、本事業を開始できますことを心から感謝いたすところであります。

各方面の皆様にご利用されますことをお願い申して、刊行の辞といたします。

平成二十六年十一月

天理図書館長 諸井慶一郎

### 天理図書館について

大正十四年（一九二五）三月、中山正善天理教二代真柱によって、本教の総合図書館設立が計画された。翌十五年十一月、約二万六千冊をもって閲覧を開始、その後、昭和五年に現天理図書館本館が竣工し、現在の活動の第一歩が踏み出された。

以来、満十五歳以上のすべての人々に広く公開して、天理大学付属図書館であると同時に、宗教研究・一般学術研究の専門図書館として様々な活動を続けている。

現在の蔵書数は約二百万冊。宗教学・東洋学・オリエント学・民俗学・地理学・言語学、中でも国文学等において精選された資料の蒐集を続け、これらの分野では極めて貴重な文献を数多く所蔵している。

こうした所蔵資料の公開・利用のために、一般蔵書目録の他にも、各種の貴重書目録・主題目録、また、貴重資料の影印複製・各種図録類を刊行。館報『ピブリア』（現在、第140号）では、所蔵資料の紹介・翻刻等を行っている。



天理図書館 正面



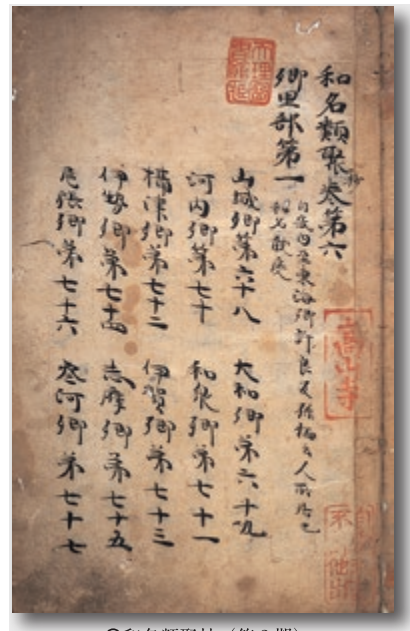
いはやものがたり (第4期)

◆古代から近世まで、多彩な稀観書を精選!

全5期36巻

- 【第1期】国史古記録 全6巻
- 【第2期】古辞書 全6巻
- 【第3期】源氏物語 全10巻
- 【第4期】奈良絵本 全8巻
- 【第5期】連歌俳諧 全6巻

# 新天理図書館善本叢書



◎和名類聚抄 (第2期)



集百句之連歌 (第5期)



源氏物語 伝二条為明筆本 (第3期)

癸酉記行 (第5期)



西鶴独吟百韻自注絵巻 (第5期)

◎類聚名義抄 (第2期)





【国宝】日本書紀 乾元本

【第1期】国史古記録 全6巻

第1巻 【重要文化財】 古事記 道果本 【国宝】 播磨国風土記

第2～3巻 【国宝】 日本書紀 乾元本 一・二 神代上・神代下

第4巻 【重要文化財】 古語拾遺 嘉禄本・暦仁本

第5巻 【重要文化財】 明月記

【重要文化財】 治承四・五年 / 【重要文化財】 正治元年八月 / 【重要文化財】 正治元年九月 / 【重要文化財】 建仁二年正月他  
【重要文化財】 嘉禄三年七月 / 【重要文化財】 安貞元年七月・九月

第6巻 【重要文化財】 定家筆古記録 ※印は「善本叢書」収録

兵範記 / 天文密奏 / 射遺事 / 外記政 / 釈奠次第 / 御産七夜次第 / 定家小本 / 古今名所 / 藤原定家消息 / 【重要文化財】 石清水八幡宮権别当田中宗清願文案

一新した不易の善本

— 新『善本叢書』刊行によせて —

大阪女子大学名誉教授  
 文化功労者 片桐洋一

五十年近く前、一九七三年に大阪府から一年間の国内研修を許されて天理図書館に通っていた頃、旧版の『善本叢書』が刊行されつつあった。せっかく毎週来ているのだからという理由で途中から編集委員に加えられた私の善本修業は、国内研修が終わっても、そのまま続き、ふだんはガラスケース越しでしか見ることのできぬ数々の宝物を、丁数を数えながら直接拝見した。富永牧太館長はじめ、野間光辰・中村幸彦・中村忠行・木村三四吾などの大先生の御示教を直接得られた編集委員会の経験は、その後の冷泉家時雨亭文庫編集委員につながる私の研究者人生の方向を決定づけるものであった。

天理図書館の蔵書については、旧版の編集顧問であった神田喜一郎先生曰く「東は天理、西はヴァチカン」と、また、その影印については、吉川幸次郎先生曰く「其の景印の精は、皆な巧鏡に頼り、紙墨の微、一つも逃れる所が無い」と頌えられたところである。

さて、今回の新『善本叢書』の特徴は、すべてが高精細カラー版で大判になったことである。原本を見たこともない人でも、原本のすばらしさを、かつて私が手に取って見たように、まざまざと体感できるようになったのである。文化財を直接手にする、これを贅沢・至福と言わずして、何と言おうか。

【第2期】古辞書 全6巻

第7巻 和名類聚抄 高山寺本

第8巻 三宝類字集 高山寺本

第9〜11巻 類聚名義抄 観智院本 一〜三 仏・法・僧

第12巻 世俗諺文 作文大躰

【第3期】源氏物語 全10巻

第13〜22巻 源氏物語 伝二条為明筆本(池田本) 一〜十

【第4期】奈良絵本 全8巻

第23巻 奈良絵本集 一

天神縁起絵巻(室町中期写) / 八幡大菩薩御縁起(享禄4年奥書) / 鼠の草子絵巻(室町末期写) / 鼠の草子絵巻別本(江戸初期写) / やひやうゑねずみ(寛永頃写)

第24巻 奈良絵本集 二

舟のゑとく(江戸初期写) / 常盤の姫(寛文頃写) / 小男の草子絵巻(室町末期写) / 小男の草子絵巻別本(慶長12年写) / 小おとこ(江戸初期写)

第25巻 奈良絵本集 三

小伏見物語(慶長頃写) / ひだか川(江戸初期写)

第26巻 奈良絵本集 四

あま物語(江戸初期写) / 大古久まい(江戸初期写) / 磯崎物語(江戸初期写) / さ、やき竹(江戸初期写)

第27巻 奈良絵本集 五

いはやものがたり(室町末期写) / しやうるり(室町末期写)

第28巻 奈良絵本集 六

しづか(室町末期写) / まんぢうのさうし(室町末期写) / 花鳥風月物語(室町末期写)

第29巻 奈良絵本集 七

熊野の本地(室町末期写) / 宝月童子(江戸初期写)

第30巻 奈良絵本集 八

虫妹背物語(享保2年写) / 山海異形(江戸初期写)

【第5期】連歌俳諧 全6巻

第31巻 連歌卷子本集 一

集百句之連歌(文明元年 能阿自筆) / 賦浄土・要文連歌百韻(天文17年6月9日) / 賦唐何連歌百韻(文明19年6月25日 実隆自筆) / 賦何船連歌百韻(永禄13年3月21日 昌叱自筆) / 賦何人連歌百韻(天文20年 紹巴自筆) / 近衛植家惠雲院追善連歌百韻(永禄9年 紹巴自筆) / 賦何船連歌百韻(永禄年間 紹巴自筆) / 賦山何連歌百韻(元龜2年 紹巴自筆)

第32巻 連歌卷子本集 二

賦何船連歌百韻(天正3年9月15日 紹巴自筆) / 賦何人連歌百韻(天正9年3月16日 昌叱自筆) / 賦何垣連歌百韻(天正10年6月26日 紹巴自筆) / 夢想之連歌百韻(天正10年8月18日 紹巴自筆) / 賦何木連歌百韻(天正15年6月24日 紹巴自筆) / 賦初何連歌百韻(天正16年11月13日 紹巴自筆) / 賦何船連歌百韻(天正20年11月24日 紹巴自筆) 初学用捨抄(紹巴筆)

第33巻 西鶴自筆本集

西鶴独吟百韻自注絵巻 / 胴骨三百韻 / 俳諧之口伝 / 夢想之俳諧 / 塩浜画賛 / 神の梅画賛 / 世継翁画賛 / 梅に鶯画賛 / 「大ふりや」発句画賛 / 磯崎松画賛 / 西鶴・才磨画賛 / 「父ハ花」発句短冊 / 「穴師吹」発句短冊 / 「餅花や」発句短冊 / 「夜のにしき」発句短冊 / 「御詠歌や」発句短冊 / 「軒下の」発句短冊 / 「花を雪に」発句短冊 / 「長持に」発句短冊 / 「角樽を」発句短冊 / 西鶴評点政昌等三吟百韻巻 / 大矢数成就文 下里勘州宛 / 西鶴書簡 下里寂照宛 / 西鶴書簡 下里勘兵衛宛 / 西鶴書簡包紙 下里勘兵衛宛

第34巻 芭蕉集 自筆本・鯉屋物

\*印は「善本叢書」収録

※奥の細道行脚之図 / 幻住庵記 / 梅雀桐蹊 / 両吟歌僊俳諧 / 芭蕉書簡(3点) / 鯉屋物集(ひとつめきて) / 発句「ほろほろと」 / 発句画賛・「葛の葉の」 / 発句画賛・「朝顔に」 / 発句画賛・「あかあかと」 / 発句画賛・「みのむしの」 / 発句画賛・「蓑虫説・蓑虫説・歳旦発句短冊集・鉢た、き自画賛・愚に闇ク」 / 発句短冊・祝商山「はま弓や」 / 発句詠草・夏三句詠草・初秋七日の雨星を申ふ句文・「月雪と」 / 発句短冊・素堂寿母七十七賀句・桃隣書簡・萩鹿岡・「観音の」 / 発句懐紙・芭蕉翁馬上吟図・芭蕉画竹図・述懐の句文・松節自画賛・支考書簡・芭蕉脇息図・「はつ雪や」 / 発句色紙・枯木鹿自画賛・蓑虫説跋草稿・四山瓢銘・富嶽遠望図・葡萄栗鼠図・稲穂図草枕句文・一輪牡丹図・\*鹿島紀行・あつめ句・\*野ざらし紀行・\*癸酉記行

第35巻 燕村集 一

夏より 三葉社中句集 / 高德院発句会 / 月並発句帖

第36巻 燕村集 二

夜半亭燕村句集



天理図書館 正面カウンター周辺

## ■印刷・造本

### 高精度のデジタル撮影

- ◆高精度デジタル撮影（約2,230万画素）による画像データを使用、可能な限り豊富な原本情報の再現を図る。

### 最新技術による最高度の製版

- ◆最新技術による高精細ハイブリッドスクリーニング（AGFA スプリマ240線）で製版する。
- ◆ハイブリッドスクリーニングとは  
濃度域によって二つ技術の長所を使い分けた製版方式。中間調には、高線数のAMスクリーニング（連続諧調を生成する一般的な方式）を用いて滑らかな階調表現を再現。ハイライトとシャドウ部には、ランダムに配置される微小網点の密度によって階調を表現するFMスクリーニングを用い、印刷適性に応じて網点の密度を変調し、優れた階調再現を行う。

### 厳密な校正点検

- ◆製版された画像データを用いて、小社編集部がDTPソフトでトリミング・柱の掲出・紙数表示等の割付を行い、ページアップ校正を出校、天理図書館担当者・解題執筆者が確認を行う。
- ◆色校正に際しては、原本と照合点検の上、その再現に厳密を期する。

### 印刷立会いによる最終チェック

- ◆印刷時には、天理図書館担当者・小社編集担当者が立会い、各台（16頁毎）刷り出し時の版面点検・色調整、印刷時の抜取り検査等を厳格に行う。

### 技術的研鑽を重ねた印刷所

- ◆製版・印刷は、「善本叢書」以降も「正倉院古文書影印集成」「尊経閣善本影印集成」等で技術的な研鑽を重ね、優秀な実績を積んでいる天理時報社が担当。

### カラー影印に最適な用紙

- ◆カラー版オフセット印刷に適し、かつ原本の風合いを生かせるよう光沢を抑えた高級微塗工紙（中性紙）を使用。

### 堅牢な製本

- ◆糸かがり、上製クロス装とし、堅牢にして日常の連用・長期保存に耐える製本とする。

## ■編集方針

### 新編集による高精細カラー版

- ◆「天理図書館善本叢書和書之部（1971～1986）」刊行後の研究進展・印刷技術の発展を鑑み、時代に即した新編集で「新天理図書館善本叢書」を刊行する。
- ◆天理図書館所蔵の和書の中から、主に国史・国語・国文に関する資料的価値の高い善本を選択し、高精細カラー版オフセット印刷により影印する。
- ◆収録候補に上がった書目を、時代別・分野別に分類し、両者を総合して数期に分け、逐次上梓する。

### カラー版に向く貴重書を精選

- ◆選択する底本は、伝本中、一の基準を代表する優品であると共に、特にカラー版影印によって学界に裨益する内容であることを期する。
- ◆新資料の紹介はもちろん、かつて複製されたものであっても、カラー版の大型判型によって更なる原本情報を提供できるものは、これを加える。

### 利用しやすい編成と編集

- ◆判型は、原本の形態に応じて菊倍判・A4判横本・B5判横本を適宜採用し、各判型毎に利用しやすい頁数を考慮の上、類聚ないしは分冊編成する。
- ◆影印本文の各頁には書名・巻次・項目名等の柱を掲出し、卷子本の紙数・冊子本の丁付を本文下欄に表示し、利用の便を図る。

### 解題は全て新規書き下ろし

- ◆解題は、簡明にして正確な記述に主眼を置き、各書目について専門的知見を有する研究者へ依頼する。
- ◆「善本叢書」既収録の書目についても、旧版刊行後の研究進展による旧解題内容の修正、および新たな知見などを加味した新規解題を収載する。
- ◆訓点が多く施されている書目については、解題に加え、専門研究者による訓点解説を収載する。



天理図書館 貴重書庫

## 高精細カラー版について

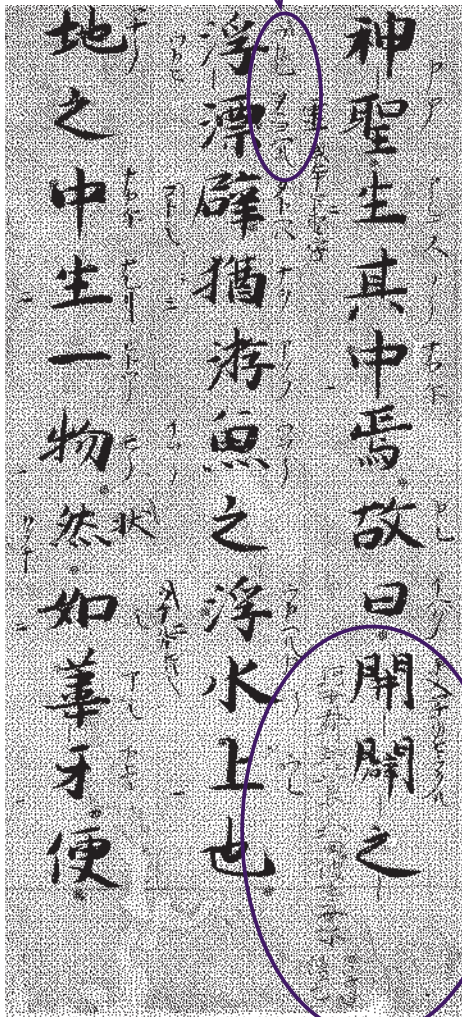
- オールカラーの高精細画像により、旧版(単色)と比べ、豊富な原本情報を鮮明に再現。
- 墨朱濃淡、微妙な彩色、微細な訓点、料紙の紙継・補修痕、擦消し・書き込み修正など本文校訂の様相等々、細部の可読性が格段に向上。
- 電子画像と比較して、長期保存性、閲覧環境に左右されない安定性など、紙媒体ならではのメリットを生かした信頼できる画像を提供。

### 【旧版との版面比較『日本書紀 乾元本』】

※旧版「善本叢書①」A5判  
(原本からの縮率 64%)

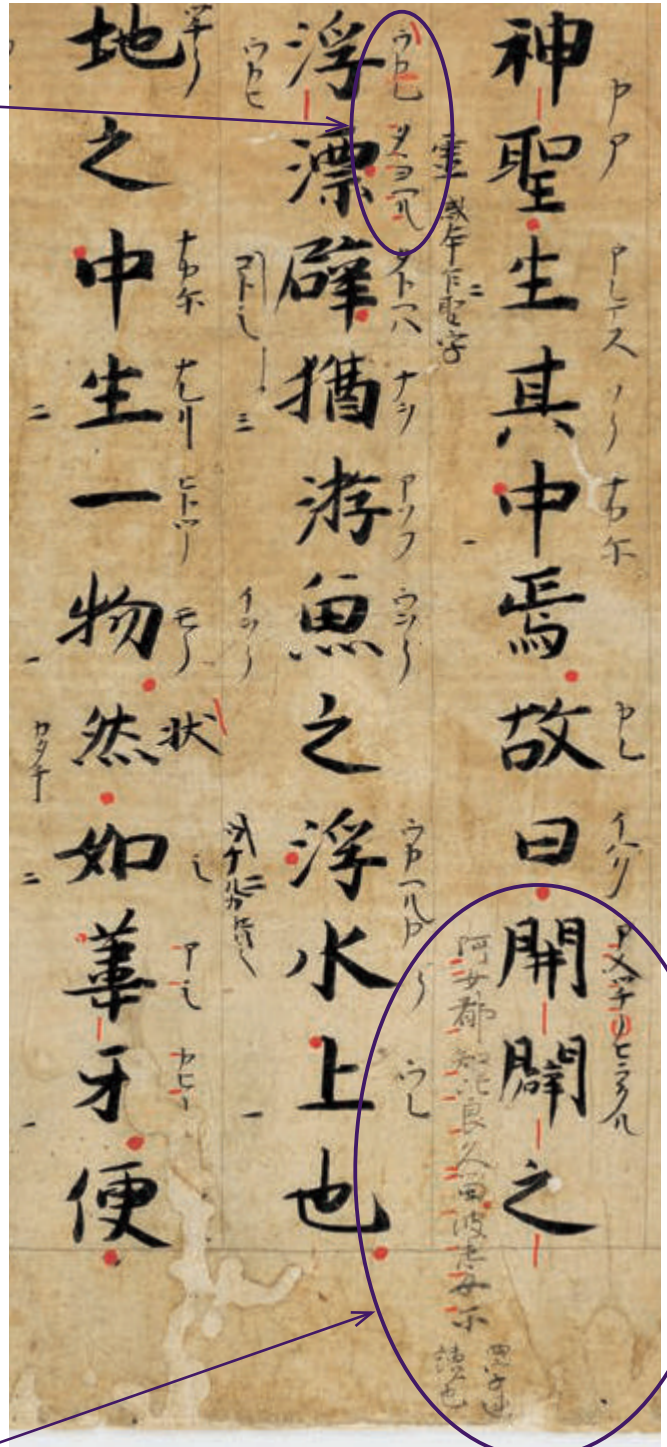
※高精細カラー版「新善本叢書②」菊倍判  
(原本からの縮率 94%)

●朱墨の判別が一目瞭然に



旧版「善本叢書①」(1972年刊)

→  
●大型判型を採用し  
版面を大きく  
(A5判→菊倍判)



- 薄い字・微細な訓点等、細部の可読性が格段に向上
- 界線の描画・虫損の具合等、料紙の様相が明瞭に

## 原本に肉薄する新たな壮挙

奈良大学教授 東野治之

『新天理図書館善本叢書』が出ると聞いて、このデジタル時代に何をいまさらと思う人は少なくないはずである。すでに一九七一年から刊行された叢書が有名であり、屋上屋を架すと見られるのも尤もである。しかしこの新シリーズは旧版と面目を異にする。単に新しい書目が加わり、気鋭の研究者の解説が付くというだけではない。判型が大きくなり、全てが高精細のカラーで提供されるのである。画面でデジタル画像を見る不便さをおこつ人は多いと思うが、スクロールを必要とするデジタル画像はまさに卷子本であり、電源や機器の心配もなく、いつでも必要箇所を披見できる冊子形態の利便さには、今のところ到底かなわない。さらに喜ばしいのは、全ての資料を原物に極めて近い色で見られることである。これは研究者にとって安心の上ない。以前、複製といえは朱墨二色刷りが普通であったが、これは曲者である。その場合の朱には、人手による分色作業のため、よくミスが生じるからである。私の乏しい経験でも、かつて法隆寺献納宝物の『聖徳太子伝私記』を史料とする際、二色刷の複製では朱が墨になっているらしいのに気付き、原本に当たらせてもらったところ、薄れた朱訓が落ちていたことまで判明した。今度の複製はそういう危惧とは無縁であり、目を凝らせば新しい情報が読み取れる可能性さえ秘めている。貴重な文化遺産を理想的な形で後世に伝えようとするこの出版は、新たな壮挙といって過言ではないであろう。

## 蘇る定家の息づかい

東京大学名誉教授 五味文彦

歴史資料は何と言っても原本が第一である。活字化されていても、しばしば誤りがあるばかりか、字の配置や大きさ、形までもが正確に再現されているわけではない。その写真版はあっても、原本の風合いや紙質など細かい点となると、あまり伝わってこない。だからといって保存や管理などを考えれば、そうそう簡単に原本を見ることもできない。

そうした時に十分に威力を発揮するのが高精細なカラー影印版である。これであれば、原本とは違つて身近においてじっくりと観察ができ、原本の風合いなども伝わってくる。本叢書はまさにその要望を十分に満たすべく刊行されたのである。そこからは書き手の字体のみならず、書いた時の思いや感情、体調までもが伝わってくる。

私がこの体験をしたのは、『冷泉家時雨亭叢書』所収の藤原定家『明月記』を見ていた時であった。見聞した様子をそのままに、思ったことをリアルに、病の時には弱々しく書かれていて、その息づかいが伝わってきた。まことに『明月記』が稀有の日記であることがわかったが、それもあつて国宝に指定された。

本叢書にはその『明月記』の最も初期の自筆本や未紹介の本、さらには定家関係の記録や文書が収載され、我々に貴重な未知の文化情報を伝えてくれる。関係者に感謝するとともに、その広範な活用を望んで強く推薦したい。

## 高精細カラー版の偉力

京都大学大学院教授 木田章義

前回の『天理図書館善本叢書』（和書之部）は一九七一年から刊行が始まり、大量の貴重な典籍が影印刊行された。関連するさまざまな分野の研究が進み、学界全体の研究水準の底上げがなされた画期的な叢書であった。しかし刊行開始から四〇年以上、配本が終わった時からでも三〇年以上が過ぎている。今回、旧叢書中から厳選し、前回刊行されなかった重要な典籍を加えて、カラー版で刊行する計画であるという。

第一期「国史古記録」（全六巻）として刊行予定書目の中、『日本書紀』、『播磨国風土記』、『古語拾遺』は旧叢書でも刊行された国宝、重文であるが、今回は、新しく道果本『古事記』と定家自筆本が加わる予定である。新加典籍も重文と重文相当の典籍ばかりである。旧叢書の印刷技術は当時の最高水準のもので、白黒ながら朱墨が明瞭に見分けることができた。今回のカラー版では、濃度によって網点のサイズや密度を変化させる高精細の技術を用いるという。朱墨の濃淡、摺り消し、重ね書きなども現物さながらに復元され、調点の先後関係や時代までも推定できるようになるだろうし、運筆の様子、紙質までも窺えるはずである。これらの典籍は、現物を拝見できる機会はほとんど無いものばかりであるが、現物に近いカラー版があれば、ほぼ原典調査に近い結果が得られるだろう。このような本を机上に置いて、心ゆくまで調査し、鑑賞することができるようになるのは本当にありがたいことである。



# 【第1期】書目略解

国史古記録 全6巻

\*印は新収書目〔善本叢書〕未収

●第1巻〔第6回配本・2016年2月〕

## 【重要文化財】 古事記道果本

巻上 永徳元年（二三八一）写

〔解題〕

野尻 忠（奈良国立博物館学芸部企画室長）

〔訓読解説〕

木田章義（京都大学大学院教授）

天武天皇の勅命により稗田阿礼が誦習した帝紀（皇室の系統譜）および先代の旧辞（各氏族伝来の史書）を太安万侶が元明天皇の勅を奉じて撰録、和銅五年（七二二年）に献上された、日本における現存最古の説話的な史書である。上巻（神代）、中巻（神武天皇）、応神天皇、下巻（仁徳天皇、推古天皇）の三巻より成る。『日本書紀』と比べると伝本の数は非常に少なく、名古屋市真福寺蔵の応安四年（一三七二）写本を遡るものはない。

所収本は、応安写本より約一〇年後の永徳元年（一三八一）、真言僧・道果によって書写されたと比定されているもの。序および上巻の前半、須佐之男命の八雲神詠までを収める袋綴一冊の零本だが、伊勢系統写本のうち現存第二の古写本として重要。真福寺本には存在しない句読点、訓、返点、傍注などが朱筆で施され、他の写本との校勘を試みた跡も見られる。このたび原寸大の高精細カラー版によってこれらが明瞭となることは、『古事記』研究の進展に資するものといえる。

## 【国宝】 播磨国風土記

三条西家本

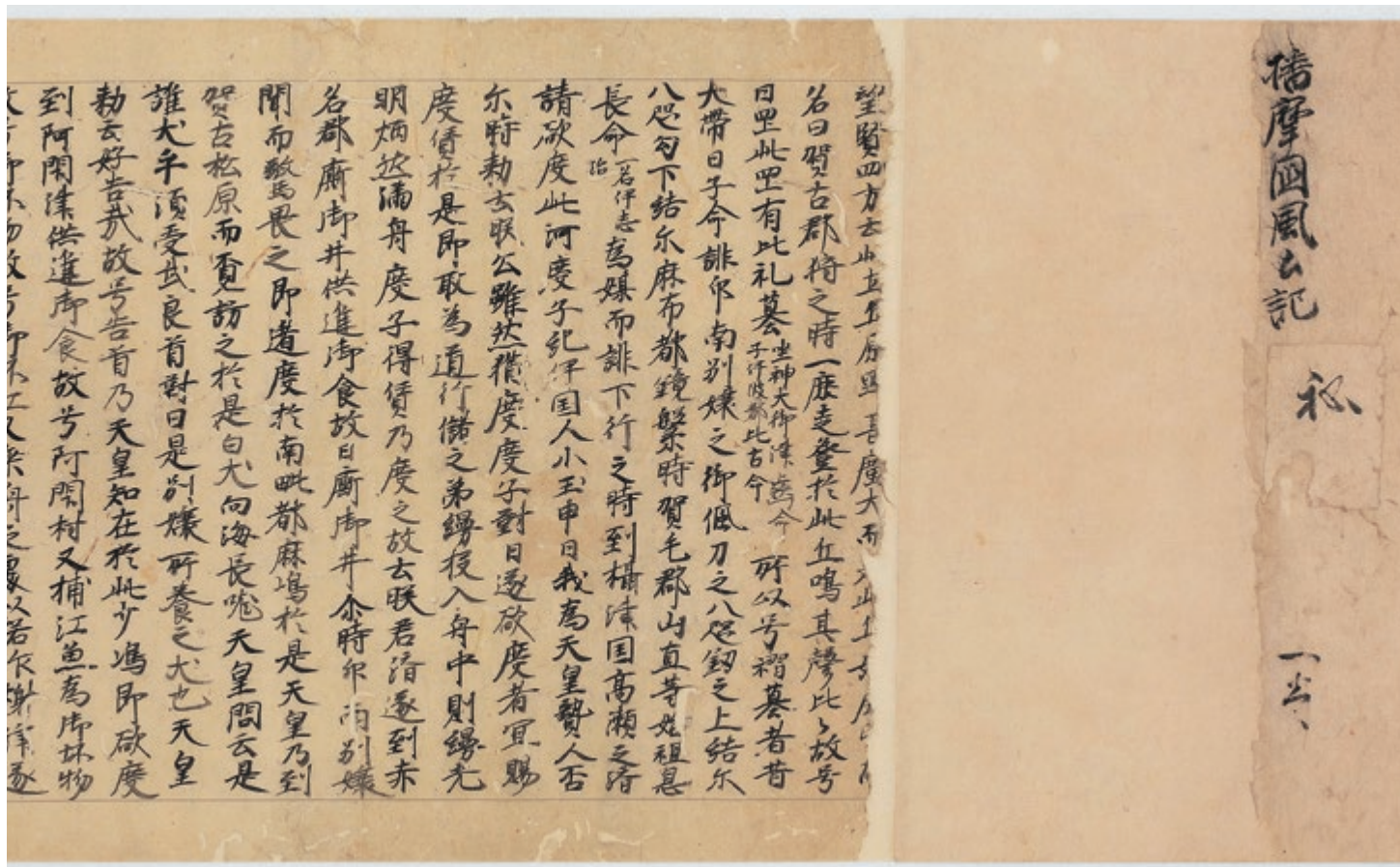
〔解題〕

小倉慈司（国立歴史民俗博物館准教授）

平安末期写

風土記は、和銅六年（七二二）、元明天皇が諸国に勅し、地名や遺跡の由来、土地の沃瘠、特産物、古老相伝の旧聞異事などを採録・編纂させた官撰の地誌である。成立当時は各国風土記が六〇巻ほど存したと言われるが、その殆どが散逸。まとまった形で伝存しているものは五か国のみで、『古風土記』と称される。『播磨国風土記』はこの古風土記のうちの一つ。原本は霊龜元年（七一五）以前に成立したと思われる。

所収本は現存最古の写本にして、伝本中唯一の祖本として貴重。卷子装一巻、本文は速筆で錯綜。巻頭部分を破損し賀古郡総説の中途から本文がはじまるが、欠落部にはおそらく播磨国総説・明石・賀古郡の前半部があったものと思われる。錯簡をはじめとして未整備な部分が多いことから、播磨国庁における最終的な統一編集を受ける以前の古態を残しているといわれる。原本情報カラーで再現されることにより、筆使いや墨継ぎ等も明瞭に判り、料紙・墨色など、平安末期の写本の様態を知る意味で重要といえよう。



【国宝】播磨国風土記 三条西家本

●第2卷〔第1回配本・2015年4月〕

〔解題〕  
遠藤慶太（皇學館大学准教授）

●第3卷〔第6回配本・2015年6月〕

〔訓点解説〕  
是澤範三（京都精華大学准教授）

〔国宝〕  
日本書紀 乾元本 一 神代上・二 神代下

乾元二年（一二三〇三） 卜部兼夏写

日本国の正史である「六国史」の第一書で、漢文を以つて全三十巻からなる編年体の史書。養老四年（七二〇）、舎人親王らが勅を奉じて撰進した。巻三以降は、神武天皇より持統天皇十一年（六九七）に至る人皇紀だが、冒頭巻一二は「神代巻」とも称され、説話的記述を多く載せ、また「一書」として別伝異文が列挙されており、その編集姿勢は古くから史家の称賛を受けている。特に唯一 神道卜部家では神典として尊重された。所収本は、乾元二年（一二三〇三）、卜部兼夏が累家の秘本を以つて書写したもの。神代巻の完本としては、卜部兼方書写の弘安本に次ぐ古さで、卜部家作成の多くの『日本書紀』写本の原本となった。全巻に朱墨訓点が施され、また代々の秘説が紙背にまで及んで詳細に注されているのが特徴。吉田兼俱の自筆書入れなどは、彼が大成した神道説を考える絶好の材料である。高精細カラー版によつて朱墨点・傍訓・注記の可読性が格段に向上。吉田家の理論、古い時代の訓読を考えるうえで必須といえる。

●第4卷〔第4回配本・2015年10月〕

〔解題〕  
山本 崇（奈良文化財研究所主任研究員）

〔重要文化財〕  
古語拾遺

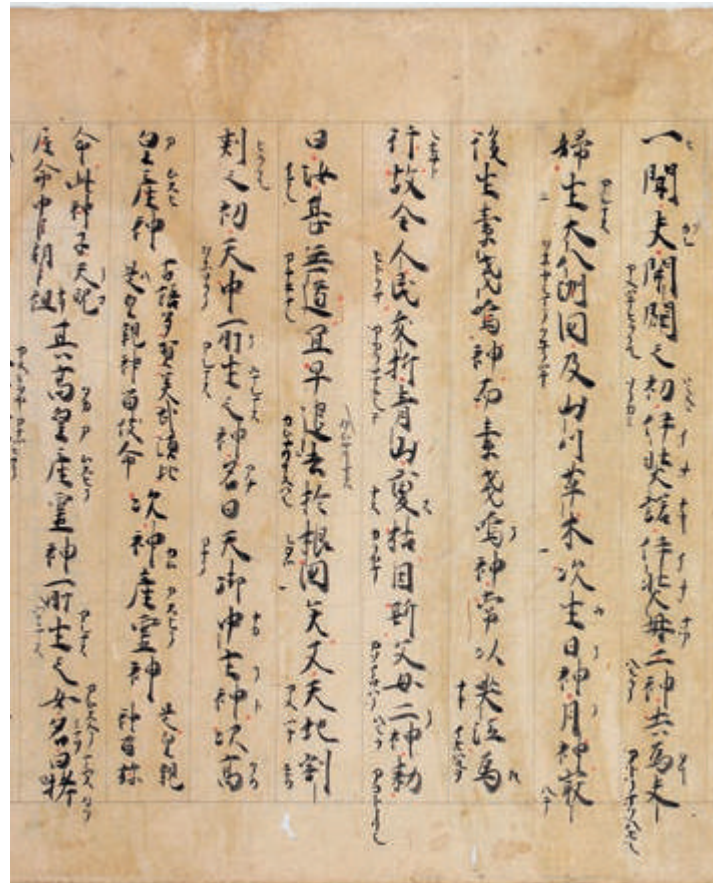
〔訓点解説〕  
木田章義（京都大学大学院教授）

嘉禄本 嘉禄元年（一二三五） 卜部兼直写  
暦仁本 暦仁元年（一二三八） 写

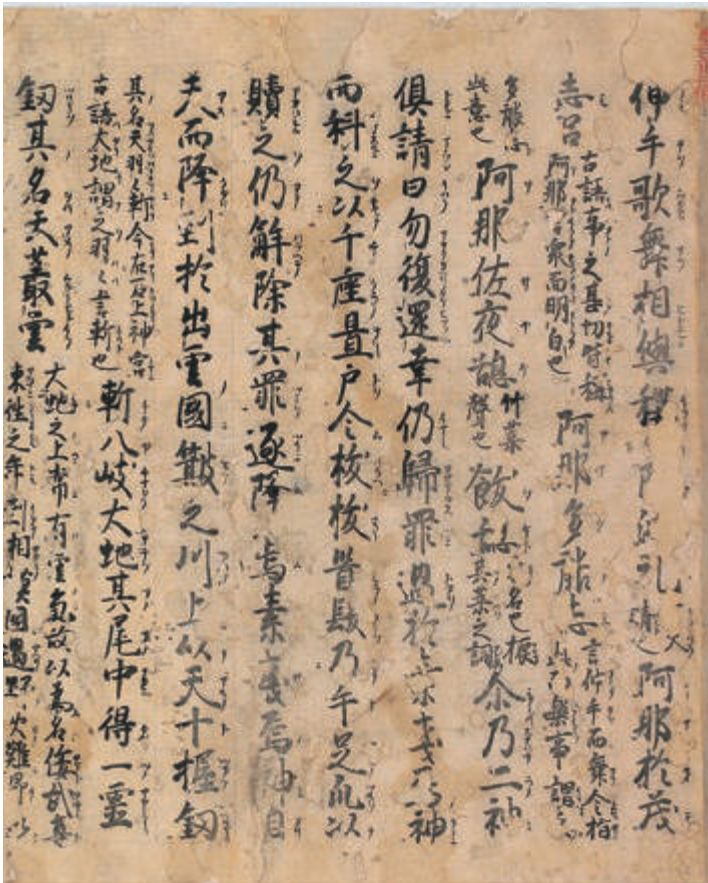
斎部広成が著した、平安時代初期の単行法「式」制定の資料として提出された書。大同二年（八〇七）成立。内容は、平城天皇の召問に対し、斎部氏の立場をもつて神代以来の祭祀の流れを概観したものである。記紀にはない所伝を含むことから、古代氏族伝承を考える上で示唆に富む。

嘉禄本は、嘉禄元年（一二三五） 卜部兼直が藤原長倫本を書写したもの。乾元本日本書紀とならんで、吉田系卜部家の秘本として伝襲秘蔵されてきた。現存諸本中最古のもので、卜部系諸本の祖本でもある。本文に朱墨両様による声点や傍訓・返り点などが多く施されているのが特徴。

暦仁本は、暦仁元年（一二三八） 僧寛英が書写したものの。嘉禄本に次ぐ古写本で、虫損著しく巻首を欠くが、卜部本とは別系の、伊勢本系統の真福寺本に連なる写本とされ、傍注の訓点に独自のものがみられる。今回の大型判型カラー版により、古語拾遺の研究はもとより、吉田系卜部家の文庫史や中世神祇史研究の進展に資することが期待される。



〔重要文化財〕古語拾遺 嘉禄本



〔重要文化財〕古語拾遺 暦仁本

●第5卷〔第5回配本・2015年12月〕

明月記

〔解題〕  
尾上陽介（東京大学史料編纂所准教授）

〔重要文化財〕  
治承四・五年／正治元年八月／正治元年九月／建仁二年正月他  
嘉祿三年七月／安貞元年七月―九月

新古今時代を代表する歌人にして、膨大な典籍を書写し後世に伝えた古典学者でもある権中納言藤原定家（一一六二―一二四一）の日記。別名「照光記」。定家十九歳の治承四年（一一八〇）二月にはじまり、一部欠落もあるが、出家後の嘉祿元年（一二三五）十二月、七十四歳に至る五十六年間に及ぶ記事が伝わる。激動する時代の京都周辺の動静のほか、歌道や古典に関する記事も多く、定家の歌学研究、ならびに院政末々鎌倉初期の歴史・文化研究において必須の書といえる。

ここに収める原本のうち、治承四・五年記は源平の争乱に対する「紅旗征戎吾事に非ず」という記事がよく知られているが、初めて全体の高精細カラー版が刊行されることで、定家がこの文字を記した状況について新たな知見が得られよう。また、正治元年八月記・九月記、嘉祿三年七月記の三巻は、これまでほとんど所在が知られていなかった原本であり、ここで公開される意義はまことに大きい。

●第6卷〔第3回配本・2015年8月〕

定家筆古記録

〔解題〕  
石田実洋（宮内庁書陵部編修課主任研究員）

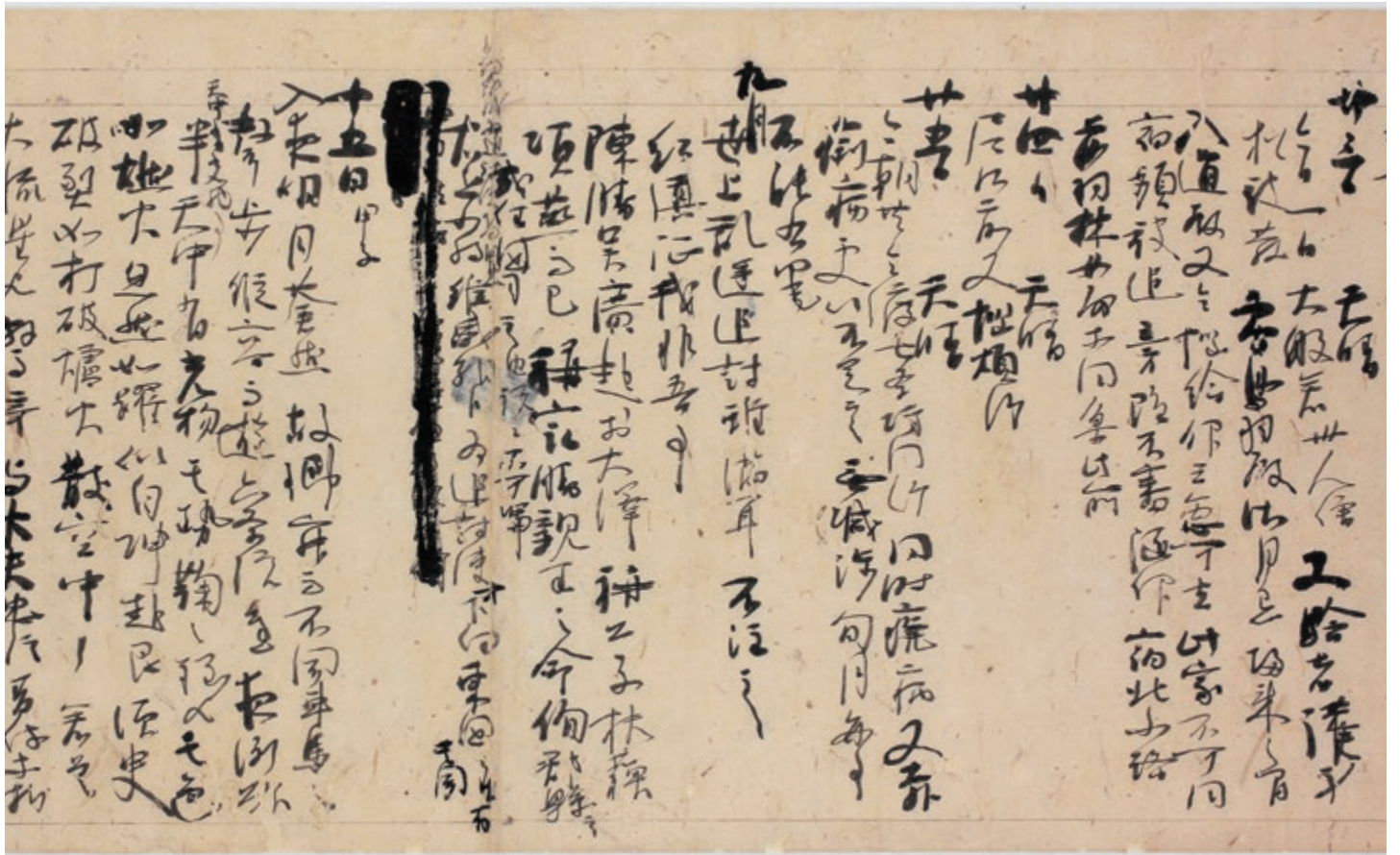
兵範記／天文密奏／射遺事／外記政／積奠次第／御産七夜次第

定家小本／古今名所／藤原定家消息／石清水八幡宮権別当田中宗清願文案

藤原定家が自ら書写、あるいは雇筆にて書写させた『兵範記』（平信範の日記）の一卷、それに定家自筆になる朝儀の次第書や歌書、文書などを収める。

定家も専門の歌人であったわけではなく、まず何といっても朝廷に仕える官人であった。当時は、公家社会で撰閲家を頂点とする家格が整えられつつあった時代であるが、父俊成（一一一四―一二〇四）は、和歌の世界では大きな足跡を残すものの、官人としては高い地位を得る前に出家してしまう。そこで定家には、和歌の世界での地位を固めるとともに、それ相応の家格を獲得する、という課題も大きかったと推測される。『明月記』に装束に関する記事が多いことなどは、後に羽林家と称される家格を得ることを目指した定家の努力の一側面といえよう。

本書所収の諸史料がカラー版にて細かな点まで分析可能となることが、官人として、あるいは歌人としてだけでなく、定家の全貌を理解するのに大きく寄与することが期待される。



〔重要文化財〕明月記 治承4年

# 日本書紀卷第一

## 神代上

古天地未割隍陽不分渾沌如鷄子

溟滓而含牙及其清陽者薄靡而為

天重濁者淹滯而為地精妙之合樽

易重濁之凝場難故天先成而地後

清陽 國多河 改良如 幸而  
薄靡 多奈 以文

故加礼

一卦之内皆

トト フアノ イキノ イチノ イチノ イチノ

カムシノ トロノキ

イミ ア又 ツチ イタ アヒ ヌラ シヌアルトキ トロアルクニト 下クテトリノコ

クニモリチ フスリ キセウ ムチノシ スニ アキフクニモハ ヌナセキチ

ア又ト 七石 七石ル ヌラ 井チ ヌトニチチ 九石 半ト ヌニリクニル

アスリ カセリ 吉シルハ 子ヲルハ ガクニリカクハ カシ ア又 丁ウ ナリチ 子

也頂人 シモリヨシルハ 子クハハ

# 古事記上卷

序并



古事記の序は、天武天皇の御代に於て、大易の象を以て、天地の形を記す。又、大易の象を以て、天地の形を記す。

臣安萬侶言。史混元既凝。氣象未效。

古事記の序は、天武天皇の御代に於て、大易の象を以て、天地の形を記す。又、大易の象を以て、天地の形を記す。

無名無為。誰知其然。乾坤初分。叁神作

此の叁神、天之御中主神、高御產靈日神、神產靈日神也。

造化之首。德陽斯開。二靈為群。品之祖。所以

出入幽顯。日月欽於洗目。浮沉海水。神祇

八月末

天晴

思、程門在、此山、皆、有、佛、像、會、不、行、  
思、亦、取、取、已、吾、已、時、時、應、後、此、年、也、

家、欲、非、威、此、凡、其、利、

已、計、會、有、欠、不、至、一、等、備、不、能、辦、

父、受、直、在、接、數、何、此、水、八、紫、車、生、言、之、八、礼、付、

天、前、布、白、長、馬、一、人、乘、廣、土、車、表、言、有、是、紅、仕、干、

妻、妾、木、皆、留、留、此、後、

淨、水、小、甚、野、男、五、人、幸、言、如、此、破、之、

戒、福、壇、前、此、天、前、亦、有、仕、者、吃、

禪、行、淨、泉、也、高、額、貯、海、直、寫、之、二、向、聖、化、

又、願、有、此、來、之、家、相、安、力、怨、不、厭、

朝、王、臣、臣、後、又、情、

白

中、許、自、言、之、下、木、廿、女、入、室、相、共、吞、此、山、

不、則、重、停、注、筆、不、也、款、以、由、稱、之、又、吉、和、時、此、

下、取、用、和、乘、徒、三、高、一、評、川、靈、昌、門、流、三、洞、

今、心、以、仲、十、八、十、人、死、忙、少、廿、女、大、男、以、二、人、

子、佛、物、龍、童、之、甚、奇、在、非、常、也、中、下、五、奉、

與、許、高、元、才、根、七、衣、佛、也、故、高、叔、左、涌、觀、人、

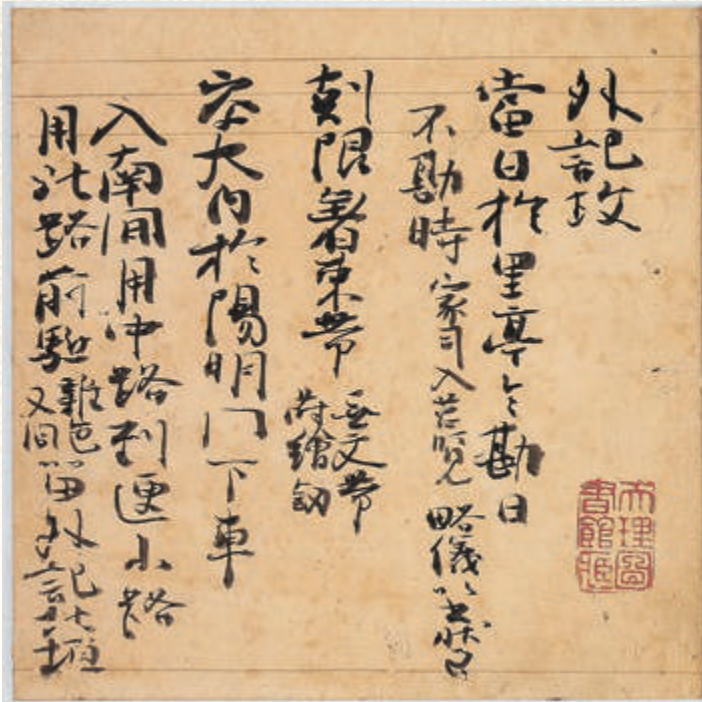
其、倒、可、之、邪、留、三、主、親、前、自、言、流、退、出、所、

臣、鬼、也、修、津、樂、敢、致、衰、苦、作、人、心、極、難、致、

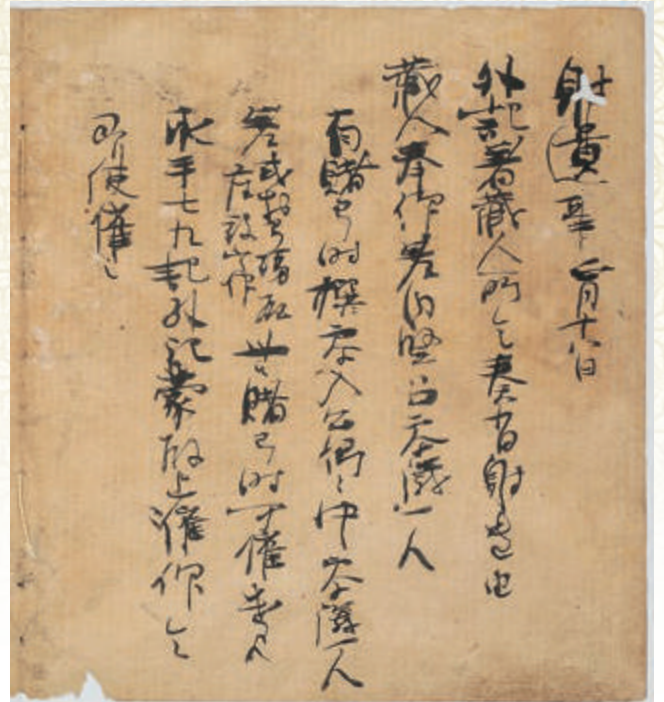
件、世、又、自、此、山、海、故、每、也、

之、取、而、此、山、信、行、喉、鏡、音、坤、方、五、也、

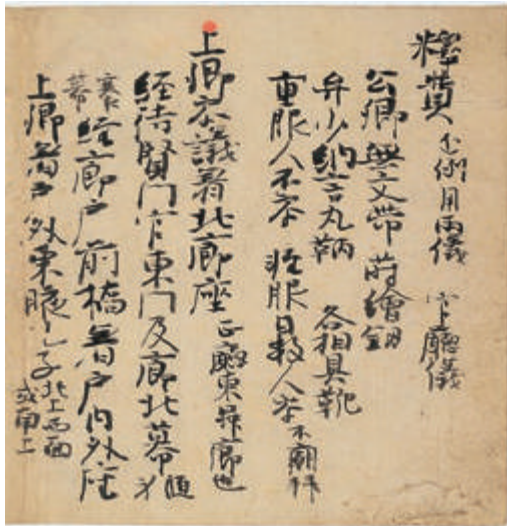




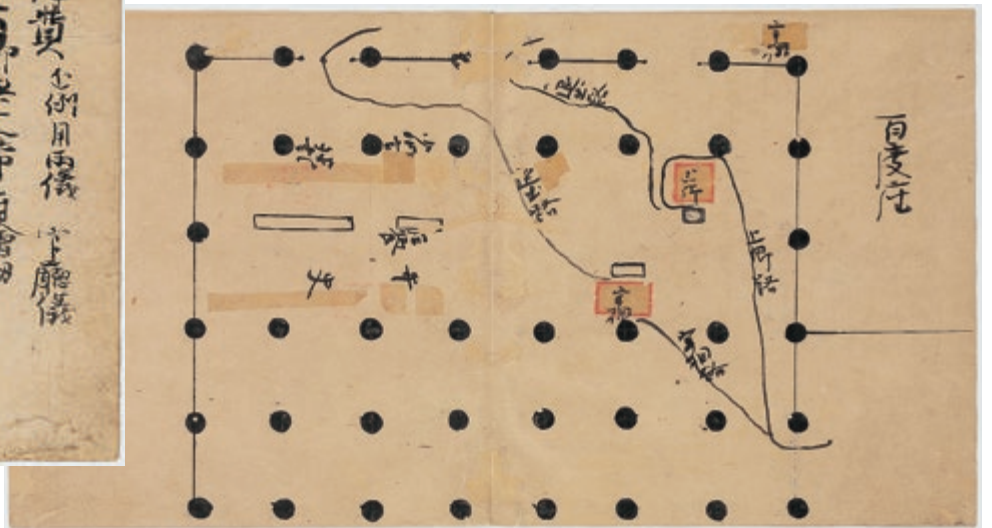
外記政



射遺事



糶黄次第



新『善本叢書』発刊にあたって

昭和四十六年十一月十四日、天理教中山正善二代真柱様のご命日に発刊した『天理図書館善本叢書』は、昭和六十一年十一月、和書之部全八十巻・漢籍之部全十二巻（計三〇一書目・古文書一九九点）で完結いたしました。この複製事業は、国宝四点、重要文化財四十一一点、重要美術品二十一点を含む古代から近世までの和漢古典籍を精確に影印刊行して、学界・書物愛好家の歓迎を受け、古典籍影印の一時代を画しました。

小社ではその後、『正倉院古文書影印集成』『尊経閣善本影印集成』など、数多くの貴重な古典籍の影印版を世に送り出し、多くの方より御高評をいただけてきました。最近では『尾州家河内本源氏物語』等において、現在の研究水準を満たす精緻なカラー影印を実現しております。

近年、製版印刷技術の進展に伴い、カラー版は以前に比べ廉価に提供できる状況になっております。一方でデジタルアーカイブとして多くの古典籍がウェブ上で閲覧できるようになりましたが、閲覧環境に左右されない安定した精度と色調を保つ影印版を備え、利用したいとの要望も多くお聞かせいただいております。

このような情勢・要望を踏まえ、長年研鑽を積んできた天理時報社と私どもが協働し、多くの情報が読み取れる高精細カラー版を、時代に即した新編集でお届けいたします。

大方のご支援ご購読をお願い申し上げます。

平成二十六年十一月

八木書店会長 八木壮一



【第1期】国史古記録 全6巻 配本予定

●第1回配本（2015年4月） 菊倍判／約二〇〇頁／本体予価二九、〇〇〇円

第2巻 日本書紀 乾元本 一 神代上

●第2回配本（2015年6月） 菊倍判／約二〇〇頁／本体予価二九、〇〇〇円

第3巻 日本書紀 乾元本 二 神代下

●第3回配本（2015年8月） A4判横本／約一九〇頁／本体予価二九、〇〇〇円

第6巻 定家筆古記録

●第4回配本（2015年10月） 菊倍判／約一四〇頁／本体予価二五、〇〇〇円

第4巻 古語拾遺 嘉禄本・暦仁本

●第5回配本（2015年12月） A4判横本／約一五〇頁／本体予価二七、〇〇〇円

第5巻 明月記

●第6回配本（2016年2月） 菊倍判／約一七〇頁／本体予価二六、〇〇〇円

第1巻 古事記 道果本 播磨国風土記

●続刊 ＊ご予約承ります

【第2期】古辞書 全6巻／【第3期】源氏物語 全10巻  
【第4期】奈良絵本 全8巻／【第5期】連歌俳諧 全6巻

【ご購入の案内】 乞ご予約！

定期予約募集！

【高精細カラー版】  
新天理図書館善本叢書 第1期全6巻  
2015年（平成27）4月刊行開始！

- 造本 判型：菊倍判・A4判横本／製本：上製本・函入  
印刷：影印本文オールカラー印刷  
製版：高精細ハイブリッドスクリーニング（AGFA スブリマ 240 線）
- 配本 隔月配本（巻数と配本順は異なります）
- 定価 第1期全6巻セット：予価（本体 165,000 円＋税）
- 分売 各巻分売可（第1期平均予価：本体 27,500 円＋税）

※シリーズ続刊の予価については、順次ご案内いたします。  
※専用注文書を本冊子に挿入しておりますので、ご利用ください。



【発売】

八木書店  
YAGI BOOK STORE LTD.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-8

● TEL 03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ● FAX 03-3291-6300  
● E-mail pub@books-yagi.co.jp ● Web http://www.books-yagi.co.jp/pub